

社会参加型教育プログラム設計ガイド

このガイドは、地域社会と連携しながら子どもたちの社会性、共感力、自己効力感を育むための教育プログラムを設計するための実践的資料です。

1. 基本方針

社会参加型教育とは、地域の課題や社会活動に児童生徒が主体的に関わりながら、学びを深める教育アプローチです。見返りを求めない行動、協力、責任感を養うことが目的です。

2. プログラムの教育目標

- 地域社会に関心を持ち、能動的に関わる力を育てる
- 共感力や他者理解を育む
- 自分の行動が社会に与える影響を理解し、責任感を持つ
- 無償の行動の価値を体験を通じて学ぶ

3. モデルプログラム構成例

以下は中高生を対象とした社会参加型プログラムの例です。

(1) 事前学習

- ・ 地域課題に関するリサーチ
- ・ 社会貢献の意義を考えるワークショップ

(2) 体験活動

- ・ 高齢者施設での交流ボランティア
- ・ 子ども食堂のお手伝い
- ・ 災害復旧ボランティア（安全管理の上で）

(3) ふりかえり・共有

- ・活動記録の作成
- ・グループディスカッションと振り返り発表
- ・次に活かす改善点の検討

4. 指導者の役割

- ・児童生徒の主体性を引き出すファシリテーターであること
- ・活動の意義を日常生活や授業と関連づけて示す
- ・ふりかえりの時間を必ず設け、感情面の成長に目を向ける

5. 評価の視点

- ・達成度よりも、取り組む姿勢・内面的変化を評価する
- ・生徒自身による自己評価を取り入れる
- ・保護者や地域の声も参考にする